

フリーライター 加藤 隆悦

みちのく

ココロとカラダの

癒し旅

秋田県男鹿半島 戸賀温泉 海と入り陽の宿 帝水



海を眺めながらいただく朝食



露天風呂からも視界を遮るものがなく海を眺められる



ラウンジからテラスに出て潮風を浴びたい



掘りたつに座れば、日本海を独り占めの気分

進化する宿



部屋でくつろぐときも、食事のときも、温泉入浴のときも、居ながら日本海の水平線を眺められる宿、男鹿半島の帝水をご紹介しよう。

本誌を長くご愛読いただいている方ならお気づきかもしれません

いが、帝水は旅指南シリーズでは2度目の登場になる。前回は平成15年9月であった。その年の7月に新館が完成し、リニューアルオープンして間もないころであった。

温泉の世界では特に珍しいことではないが、温泉宿というところは、老朽化した施設を更新したり、料理やサービス内容を一新したりして、節目節目でイメージをがらりと変えることがある。かつては団体客主体の営業をしていた宿が個人客中心の宿に切り替える例も多い。

帝水も、きつとそういう絶え間ない進化を自らに課した宿なのだろう。平成18年4月に、料理長やサービススタッフが交代し、主にソフト面でのブラッシュアップが図られた。筆者も2度目の取材となったが、心なしか、従来より更に親しみやすさを感じ

じられる宿になったような印象を受けた。

ときあたかも2007年問題到来の年、退職記念の小旅行などで、永年連れ添った夫婦で訪れてみたいような宿に、なったのではないだろうか。

海を眺めて美食を堪能

帝水が新しく迎えた総料理長は福島春雄さん。社団法人日本料理研究会が主催した第14回全国日本料理コンクールで運輸大臣賞(当時)を受賞した料理巧者だ。

地元の素材を主に使いながら、会席の修業を積んだ腕で、ボリュームに走らず派手さに走らず、それでいて、確かに一手間かかった料理人のこだわりが感じられる料理で、旅慣れた人や食通にも大いに満足できるだろう。アトラクシヨンのにも面白い、別注文の男鹿名物石

焼料理をオーダーするのも一興だ。

帝水という宿が出色なのは、その立地と各施設の配置だ。男鹿半島西海岸の、ちょうど男鹿水族館GAOの近くの高台にあり、客室も会食



石を入れて煮立たせる石焼料理



水菓子 林檎パローロワイン煮 マルメロシャーベット



旬魚・旬菜天麩羅



旬魚季節盛り



止椀 長寿芋とろろ味噌吸い



蟹焚ぎ込み御飯



替わり鉢 殻牡蠣エスカルゴ味・シメジ・ほうれん草ソース・雪輪蓮根



河豚皮白和え・林檎釜



和風の巾着袋は旅の記念にどうぞ



お茶菓子が3種もあってトクした気分



ラウンジはコーヒータイムや読書に利用したい



長い廊下の向こうに水平線がある

る料金設定もうれしい。

多彩な楽しみ方

男女とも同じ大きさの大浴場と露天風呂は、ナトリウム・塩化物・炭酸水素塩泉の無色透明のきれいな天然温泉。寒い季節も湯冷めのしないあたたまりの湯だ。高台という立地もあり、無粋な目隠しなく、大浴場からも露天風呂からも湯につかったまま、まっすぐに日本海の水が眺められる。美しい夕焼けの日にもあたられば、こんな優雅なひとときはないだろう。

毎夜8時半からは、館内のラウンジで民謡歴30年の女将による秋田民謡が唄と三味線で披露される。気

場もラウンジも大浴場も露天風呂も、すべて居ながらにして日本海の水平線を眺められるように設計されているのだ。客室の、壁全体が一枚ガラスになっているような窓から飽かず水平線を眺めていたら、まるで海を独り占めしているような、壮大な気分になってくる。
この、部屋から海を眺めている時間のためだけでも、旅の宿に帝水を選ばず泊まる場合は、大いにある。二人以上で泊まる場合は若干料金は異なるが、一人旅のお客も歓迎しているのはありがたい。実際に、一人旅の、比較的若い女性や男性のお客も少なくないそうだ。このロケーション、この設備、この料理でこの値段なら十分に納得がいくという値ごろ感のあ

宿の前の海。あの水平線の向こうに夕陽が沈む



海を眺めながら入れる大浴場



T E I S U I

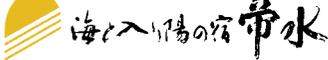
施設のご案内

- 収容 150名様 ●駐車場完備
- 客室数 33室
- 北の風(新館)17 [内特別室1]
- 西の風(本館)16
- 男女大浴場、男女露天風呂
- 宴会場 大広間(舞台付き150畳)、
- 食事処おおしま(15畳5室)
- コンベンションホール 清 40名様 ●ギャラリー

お一人様1泊2食付き(平日) 15,000円より(税別)



国定公園・男鹿半島 政府登録国際観光旅館
戸賀温泉



〒010-0673 秋田県男鹿市戸賀塩浜・戸賀温泉

TEL.0185-37-2331 Fax.0185-37-2458

ホームページアドレス <http://www.teisui.com>

女将による唄と三味線での秋田民謡



取らない秋田
弁の優しい語り
口が、旅行者に
はなによりのサ
ービスだ。
男鹿に何度
も訪れている人
なら、宿で過ご
す時間をたっぷ

りとつてのんびり過ごせばいいだろう
し、久しぶりの男鹿なら、宿とは目
と鼻の先の男鹿水族館などにも寄
つてみたい。
ゴールドenウィーク前までのオフシ
ーズ料金設定期間中(特定日を除
く)に利用してみるのも、リーズナブ
ルな楽しみ方だ。

(文・写真)かとうりゅうせい(秋田市)

